



発行所：みんなで政治を考える会
〒615-0062 京都市石京区西院坤町2
ケイハンシテイビル601
TEL.075-315-2228 FAX.075-315-2310

発行人：二ノ湯 智
国会事務所
〒100-8962 東京都千代田区永田町2-1-1
参議院議員会館632号室
TEL.03-3508-8632 FAX.03-5512-2632

えとす(Ethos)とは、文化や習慣を意味し、豊かな精神をはぐくみ、平和を希望する言葉です。
題字：栢木寛照

えとす

年間購読料 1,200円 (一部100円)
第3種郵便物認可 平成2年1月18日
口 座 01000-4-62360

平成17年 **8** 月号
No.171

京都の智恵を日本に活かす。
二ノ湯智ホームページ <http://www.ninoyusatoshi.com>

民営化関連法案 参院で否決

予想外に多い反対票 執行部の説得実らず



本会議場で青票(反対票)を投ずる二之湯議員

小泉首相、即刻解散を断行

七月五日、郵政民営化関連法案は衆議院でわずか五票差で可決した。参議院でも特別委員会を設置、八二時間をかけて審議をした。大阪府はじめ四都府県で、現地調査を実施し、京都市、盛岡市では地方公聴会を開き、地方公共団体の関係者を中心に、一六名の参考人から幅広い意見聴取を行った。しかし、それでも反対派の納得がなかなか得られない状況の中で、衆議院側から、参議院で否決されたら、衆議院が解散となる。参議院で可決成立させて解散を阻止して欲しいという声が大きくなってきた。参議院の独立性、自主性を重んずる立場の人々から衆議院の越権行為だ、横暴だという批判が起り、反対の流れが一挙に高まった。参議院本会議直前までの自民党執行部の猛烈な反対派説得にもかかわらず、全く効果が現れず、自民党から反対二二名、棄権・欠席八名が出て、法案は予想外の大差で否決されてしまった。小泉首相は、否決は、小泉内閣への不信任と位置づけ、八月八日に衆議院を解散し、郵政民営化法案の賛否を国民に問うことになった。

名、棄権・欠席八名が出て、法案は予想外の大差で否決されてしまった。小泉首相は、否決は、小泉内閣への不信任と位置づけ、八月八日に衆議院を解散し、郵政民営化法案の賛否を国民に問うことになった。



緊張感のたよう議員総会

本会議直前の議員総会 みなぎる緊張感

本会議採決前の議員総会は、どの議員の顔も、緊張感がみなぎっていた。特に棄権もしくは反対の意向を表明していた議員は、自民党幹部の説得にあつて、表情に疲れの色が見えていた。どの議員も地元選挙区の難しい事情、複雑な人間関係を背負い込んでいる。それぞれ今回の投票は一刀両断という訳にいかず、悩み苦しんだものと見られる。青木会長は、本会議での否決を予想しているのか「既に皆さんの腹は決まっていると思う。粛々とした気持ちで臨んで欲しい」と意外にサバサバした口調であった。片山幹事長は「各々大変つらい思いであろうが、党議拘束もかかっているのだから、責任ある行動を願いたい」と挨拶した。矢野国対委員長は「参院自民党は古き良き伝統をもって、常に一つという合言葉で行動してきた。ぜひよろしく」と訴えた。三人の話は、正直なところ、敗北を覚悟し、心なしか迫力がなかった。

参院郵政民営化特別委員会 地方公聴会、京都で開く

郵政民営化関連法案を審議している参議院郵政民営化に関する特別委員会では、七月二十八日、京都市内のホテルで、地方公聴会を開いた。重要法案を審議する際には、地方公聴会、中央公聴会を開いて各界各層から選出された公述人から意見を聞くことになっている。京都での公聴会では、公述人は四人。村上農一郎(株式会社ジーエスアサコーポレーション代表取締役会長)、草木慶治(元副知事、京都府農業共済組合連合会会長)、吉田和男(京都大学経済学部教授)、山岡景一郎(株式会社白川書院代表取締役)の各氏。

四人の公述人は、各々一五分間、意見を述べた後、それに対して自民、民主、公明党の委員が質問をするという形式である。村上氏は、構造改革の核の一つが郵政民営化であると認識している。この改革を色々な困難があっても、前へ進めることが必要であると民営化方針を支持した。草木氏は、「京都府内の七五%が過疎地域である。そしてそこに住む人の多くは、高齢者であり、地域の唯一の金融機関ともいえるべき郵便局がなくなるのではないかと心配している」として、現在の制度の維持を訴えた。吉田氏は日本の人口減少、Eメール等の情報手段の発達

で、将来的には、郵政事業は厳しい現実にとさらされると予想している。公社であれ、民営であれ、いずれも激変する社会への対応が求められている。経営者自らが色々なサービスを開発していくことが必要であり、それには経営の自由度が高い民営化が望ましいと述べた。山岡氏は、平成七年一月に起こった阪神淡路大震災での郵便局職員の献身的な働きぶりを例に出して、救済物資の配達は民間会社では決して出来なかつたと述べ、公営である郵便事業の長所を強調した。そして、郵便職員の熱心な仕事への取組みの背景には、自らが公務員であるという使命感、志があるということを決して忘れてはならないと力説した。四人の公述人のうち、村上、吉田氏が賛成、草木、山岡氏が反対という色分けであった。



特別委員会の委員として
公聴会に参加した二ノ湯さとし議員

険悪な雰囲気 議員の発言を強引にさえぎる

参議院の本会議前は、自民党では参議院議員総会が開かれるのが恒例である。会長である青木幹雄氏が議長で進行役、幹事

長、国対委員長長の順番で挨拶する。その後、時間があれば、議員からの発言が許される。八月三日の総会で、亀井静香前衆議院議員の兄である亀井郁夫議員が発言を求めた。亀井議員は、「参院自民党幹部が選挙地盤も安定していない新人議員に対して、他党の幹部も交えて、説得工作をしている」と抗議した。青木会長は「そんな事実は全くない」と突っぱねたが、亀井議員は「それは事実である」と発言を続けているのに、先輩議員が亀井議員の所へ行き、マイクの前に立ち戻らなかつた。亀井議員の発言を制

止した。亀井議員は、温厚な性格であるので、発言を取り止めたが、会場内の議員からは、発言を続けさせよ、先輩議員の横暴だと非難の声が挙がった。司会役の青木会長は、その間無言のままであったが、非常に気まずい雰囲気となった。郵政民営化に反対しているもう一人の議員も発言を求めたが、発言は許されなかつた。会期末になつても、本会議での採決に自信が持てない参院幹部には、あせりの気分が強く、議員を賛成に向かせる手法が少し強引ではないかという批判が起こつていた。

今回の郵政民営化法案の採決で私は青票(反対票)を投じた。私は、市会議員時代から毎月発行している「えとす」の送料を切手で支払うことにしている。2〜3万円ずつ、右京区内の特定郵便局に買いに行くのが恒例であった。特定局は、局長も職員も応対が親切で本当に良く頑張っている。普通局も、公社後の応対は以前と比べると天と地程の差で、民間会社に劣らないと思う。郵政公社は、平成一五年四月からスタートして、約二年余りが経過したが、かなり良い業績を上げている。だから私は、最初の中期経営計画の四年間は、公社方式で出来るだけ経営改善を続けて、それでも先行きが大変だということになれば、その時に抜本的見直しをすればよいと考えている。さらに四分社化にも少し疑問を持っている。窓口ネットワーク会社・郵便事業会社・郵便貯金会社・簡易保険会社に分割されるが、職員数が多数いる普通局はともかく、せいぜい職員が四〜五人の特定郵便局

においては毎日の業務をどのようにこなしていくのか、私にはよく理解できない。小泉首相が、郵政改革は構造改革の本丸であると固執した理由は、三四〇兆円とも言われる郵貯、簡保の個人金融資産の使い方である。国債や財投債を買って利ザヤを稼いでいるだけでは、日本経済の活性化に至らない。この莫大な資金をもつ民間や地方に投資することで、日本を再生しなければならぬという訳である。同時に、役人の天下り先となつている特殊法人に回る金の多くが不良債権化しているが、この莫大な無駄遣いを無くし、官から民へと金の流れを変えなければならぬとも主張する。国際金融の動きが激しい状況を考えれば、私もその考えには十分理解を示す。それでも今何故郵政民営化を急がなければならぬのか、少し拙速すぎるのではないかと強い思いがある。来るべき総選挙で、国民はどんな審判を下すか。いずれの結果が出ても私も民意に当然従わなければならない。

「歴史的都市維持・再生議員連盟」第2回勉強会が行われる

8月3日、第一衆議院会館の会議室で、「歴史的都市維持・再生議員連盟」の第二回勉強会が開催された。郵政民営化法案の採決を巡って、自民党内で多数派工作が繰り返される緊迫した状況であったが、国会議員14名と秘書29名の出席があった。事務局長の二ノ湯参議院議員も出席し、司会進行を務めた。

勉強会では、まず、法政大学の陣内秀信教授が基調講演をした。陣内教授は、「日本には、奈良・京都・鎌倉といった都をはじめ、全国各地に歴史を持つ都市がある。町の種類も城下町や宿場町など他国に類を見ない程多い。」とし、日本には世界に誇るべき、素晴らしい歴史的な町並みが多くあることを紹介した上で、「日本ではそうした都市が、文化財や商業施設としてのみ活用されており、生活感がない。」と問題点を指摘した。そして、その改善のためには、「都市計画の策定にあたってはその土地の歴史や伝統を重んじる、住居としての伝統的な建築の改築などには税・財政上の優遇措置を設けるなど、対策が必要だ。各省庁の連携も重要だ」と訴えた。

その後、各議員は、自分の選挙区における歴史的都市に触れながら質問した。その中で、「まず地

元に行えることは何か？」という問いに、陣内教授は、「その町のことを一番良く知っている人が中心となって、その町の特徴を活かした町作りを推進することだ。」と答えたが、歴史的都市の維持・再生というのは、そこを愛する人々の生活の場であり続けることが重要なのだ、と再認識させられた勉強会であった。



議員連盟の伊吹幹事長と二ノ湯事務局長

自民党京都府連の新しい人事 会長に伊吹氏 幹事長に清水氏 二ノ湯氏は副会長に就任

自民党京都府連は、七月二十四日、京都市左京区の京都公会館で、定期大会を開き、役員の内任満了にともなう、会長、幹事長の人選を行った。その結果、会長には、伊吹文明前衆議院議員、幹事長には清水鴻一郎府会議員が選出された。その他の役員人事は、伊吹会長に一任されていたが、二ノ湯参議院議員は、副会長に任命された。府連の新しい主な役員は、次の通りである。

会長 伊吹文明・前衆議院議員
幹事長 清水鴻一郎・京都府会議員

副会長 田中英夫・前衆議院議員
二ノ湯 智・参議院議員
総務会長 坪内正一・京都府会議員
政調会長 小林正明・京都府会議員
組織委員長 近藤永太郎・京都府会議員
広報委員長 斎藤 彰・京都府会議員
党紀委員長 高橋泰一朗・京都市会議員
財務局長 北川 明・京都市会議員

自民党府連、田中氏も公認申請 ねじれ現象、党本部と地方組織

自民党京都府連は、8月13日、選挙対策常任委員会を開き、来たるべき総選挙に対する取り組みについて協議した。郵政民営化関連法案の衆議院での採決に際し、自民党本部の執行部は、反対した37名については、絶対に公認しない、必ず公認の対抗馬を擁立するという方針を固めている。しかし、自民党京都府連は、四区の田中氏も含め、一区から六区まで、現職3名、新人3名の公認申請を党本部に行ったが、青票(反対票)を投じた四区の田中英夫氏の場合、当然公認候補となることは不可能で、無所属で戦うしか方法がない。田中氏の扱いについて、伊吹会長は、「来年の京都府知事選挙を控え、自民党が知事選挙を主導的に戦うためには、できるだけ多くの国会議員を作らなければならない。従って、党本部には田中氏の公認を求めると同時に、党本部の天下り公認候補を決めないように要請している」と説明した。四区の京都府議会議員、京都市会議員は、田中氏がたと

え無所属での立候補となっても、一致結束して田中氏を支援していくことで意思統一を固めている。ただ、現実に公認候補が出馬した場合、従来からの人間関係と党員としての党則遵守の板挟みとなって、悩む議員も出てくるものと思われる。いずれにしても、党本部と地方組織のねじれ選挙だけはお、突然降ってわいた選挙で、各候補者とも選挙事務所への設置はじめ、選挙準備に、盆休みも返上して、突貫作業が続いている。一区から六区まで、京都府連が公認候補として党本部に推薦した各予定者、事務所の所在は次の通りである。

第44回衆議院議員総選挙・事務所連絡先一覧

区	候補予定者	〒	住所	電話	FAX
1	伊吹文明	前 604-8162	京都市中京区烏丸通 蛸薬師上ル西側	075-256-1800	075-211-1777
2	山本ともひろ	新 606-8211	京都市左京区田中 西大久保町18	075-722-1311	075-722-1331
3	清水こういちろう	新 612-0088	京都市伏見区深草 出羽屋敷町23-11	075-643-1400	075-643-1405
4	田中ひでお	前 615-0057	京都市右京区西院 東貝川町62 (葛野大路高辻上ル西側)	075-325-5553	075-325-5554
5	谷垣さだかず	前 620-0056	福知山市厚中町166	0773-24-6234	0773-24-6144
6	いざわ京子	新 611-0042	宇治市小倉町 神楽田55-1	0774-20-5569	

第150回 みんなで歩こう湯歩会

- ・日 時：8月28日(日) 小雨決行
- ・出発時刻：午前8時30分(時間厳守)
- ・集合場所：南座前
- ・コース：京阪四条駅→京阪丹波橋南口改札出口(8時50分頃)→伏見酒蔵の街並→濠川疏水沿い→であい橋→大倉記念館→寺田屋→黄桜酒造→納屋町竜馬通り→大手筋商店街→京阪伏見桃山駅解散
- ・今回は第150回記念行事として伏見開港400年、酒蔵の街をそぞろ歩きです。宇治川の支流疏水辺りの柳並木と酒蔵の風景等往時の酒造りの様子を知ることができます。特に木蔭も取り入れての遊歩道は素晴らしく、この機会に多くのご参加をお待ちしております。
- ・代表世話人 北村好司郎 ☎075-313-8758 (当日)090-1140-4964

歩くことは 健康の基本

第149回 みんなで歩こう湯歩会(参加者63名)



高雄もみじ橋にて

一五〇回目を迎える「歩こう会」

歩くことは健康の基本をモットーに、平成四年五月に始まった二ノ湯さとし後援会の「みんなで歩こう湯歩会」。当初は、健康増進をはかることも重要な目的であったが、本当の狙いは市内の名所旧跡を訪ね歩くことであった。そして市内はもろろんのこと、近郊の町にも足を伸ばした。この「歩こう会」は、朝八時に集合し、一〇時には解散するのが恒例である。したがって、日曜日の午前中に終わるので、比較的参加しやすいのが特徴である。回数を重ね、名所旧跡も歩き尽くすと、「歩こう会」の趣旨も健康志向へと変わっていった。歩くことは安上がりで、手軽な運動である。しかも健康にいいということで、毎回多くの方々の参加を得てきた。この間、「歩こう会」の実施のため、コースの選択、下見等で、多くの方々のご協力をいただいた。これからも、継続は力なりという合言葉で、皆さんの健康増進のために「歩こう会」を続けたいと考えている。一五〇回目を迎え、あらためて「歩こう会」の参加者に感謝を申し上げ、今後も積極的にご参加下さるようお願い申し上げます。

参議院議員 二之湯智

家族そろって夏祭り約一八〇〇人が参加

ホテルを利用してのビアパーティーは、多くの府会、市会議員の夏の恒例行事となっている。手軽に親子連れで参加できる催し物であるので、希望する人が多い。二ノ湯さとし後援会も、去る八月二日、三年ぶりにビアパーティーを行った。会場となっ

た京都駅構内のホテルグランヴィアは、初めての利用であるが、宴会場も広く、料理の質も良く、参加者には概ね好評であった。なお、田中英夫衆議院議員、小泉顕雄参議院議員が来賓として出席、次期衆議院選挙に自民党公認候補として立候補予定の京都三区支部長・清水鴻一郎、京都二区支部長・山本朋広、京都六区支部長の井澤京子氏らも顔を見せた。



会場溢れんばかりの参加者で挨拶する二ノ湯議員

身辺雑記

一、当初は国民の間で関心の低かった郵政民営化法案。衆議院本会議場での採決を契機に急に大きな国民的関心事となった。マスコミの威力の大きさをしみじみ感じている。一、八月八日の本会議までマスコミ関係者から執拗に「あなたは賛成か反対か」と質問を受けた。私が無派閥という関係もあり、私の一票の動向が非常に注目されていた。私は今日まで多くの地方の人達に支えられてきた。したがって、常に地方の視点を忘

「えとす」購読のお願い
月刊誌「えとす」は
毎月一回の発行です。
毎月ご希望の方は、郵便口座振替にて、
ぜひお申し込み下さい
年間購読料 1200円
郵便振替口座 01000-4-62360
口座名：みんなで政治を考える会
— お問い合わせ先 —
二ノ湯さとし事務所
電話 075-315-2228
ホームページを開設いたしました
<http://www.ninoyusatoshi.com>

れずに投票行動を決めたいと応答していた。一、郵政民営化の審議を大詰めに迎えた議員総会。どの議員の顔も冴えない。一見して賛否の態度を決めかねているのがわかる。忠ならんとすれば孝ならず、孝ならんとすれば忠ならず。色々ながらみの板挟みとなつて困り果てているようであった。一、法案が否決されても、まさか解散はないだろうと多くの議員が高を括っていた。それでも小泉首相は解散に踏み切った。まさに自民党の分裂選挙となつてしまった。私も困るが有権者も戸惑っているだろう。一、参院本会議の採決直後、私の事務所にも抗議と励ましの電話が多かつた。この法案について、有権者が色々の思いを持っておられることが、あらためて良くわかつた。一、七月一六、一七日の両日、昨年度の参議院選挙で当選した同期会を京都で開いた。二〇名のうち、一三名が参加、同伴者が七名という好出席。京都なら行きたい、そして祇園祭をぜひ見たいというご婦人が多かつた。改めて京都の知名度、魅力の大きさを知つた。